

## 2019 年度 個人研究実績・成果報告書

2020 年 3 月 12 日

所属・職名	商経学部・教授	氏 名	田 野 宏
研 究 課 題	わが国の近代期における西洋野菜の品種導入過程と主産地形成に関する研究 —タマネギ生産地域を事例に—		
研究 キーワード	輸送園芸産地、タマネギ、春播き秋収穫、北海道、近代期、野菜新品種、F1 品種、在来品種、主産地形成	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究は現代日本人の食生活で重要な位置を占める洋菜（青果物）が近代化日本にどのように受け入れられて、今日の主産地形成に至ったのかを明らかにしようとしたものである。明治初年に北海道開拓使の手で新品種のタマネギが導入された経緯と過程を、当時の旧札幌村郊外の伏籠川流域における自然堤防流域に立地した開拓集落の農民がその普及・拡大の一翼を担ったことを把握することができた。本研究は昨年度からの 2 カ年計画で取り組んだもので、昨年度の研究段階で戦前期の出荷先が国内のみならず、海外（ロシア、フィリピン他）にも輸出されたことが明らかになった。しかし、当初予想していた調査先（郷土村資料館、農協、北海道青果商業組合、市役所、地域の商工会議所他）の調査協力は得られたものの、古い時代の明治、大正期における青果物取り扱いのデータ収集に多くの時間を割くことになり、最終的には 2020 年度の研究期間をオーバーすることになってしまった。この報告書を記している現在、不足分の期間の青果物取り扱い資料（明治 4 年～明治 30 年）の収集過程にあるが、2020 年 10 月までには収集の目途が立つようになった。すでに大正期～昭和戦前期における北海道のタマネギ産地の導入と形成過程については、粗稿の段階ではあるが執筆は終了しており、資料収集が終わり次第、2020 年度中には執筆が完了する予定である。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>未発表：調査協力機関からのデータ収集完了—2020 年 10 月頃を予定—をもって執筆を行う予定。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>図書費・文具費：研究関連専門図書、地形図購入等の研究に必要な文具の購入に使用</p> <p>その他：学会費。複数専門分野の専門学術誌の購読に使用</p> <p>旅費も申請したが、2 月上旬実施予定の北海道の調査が新型コロナ肺炎流行で中止のため、使用しなかった</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特になし</p>			
(本文は 1 ページ以内にまとめること)			